

《反「人權」宣言》

图书基本信息

书名：《反「人權」宣言》

13位ISBN编号：9784480058982

出版时间：2001-6

作者：八木 秀次

页数：204

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介以及在线试读，请支持正版图书。

更多资源请访问：www.tushu000.com

《反「人権」宣言》

内容概要

概要
王は神を追放し、人はその王を、「人権」の名のもとに排除した。それは「人権」が、民族や宗教、国家すらも超えた、普遍的なものであると考えられたからである。その結果、「人権」に異を唱えるだけで差別主義とされかねない空気が広がり、私たちの日常生活は様々な混乱に見舞われている。「人権」の歴史をたどりながら、それが生み出しつつある転倒した現実を解明し、新たな視点を提示する。

《反「人権」宣言》

作者简介

八木 秀次

1962年広島県生まれ。早稲田大学法学部卒業。同大学院政治学研究科博士課程中退。専攻は憲法学、思想史。現在、高崎経済大学助教授。一貫して「保守主義」の立場からなされる議論は、論壇の注目を集めている。

《反「人権」宣言》

書籍目録

目録

第1部 「人権」という考えはどう作られたか(「権利」はいつ生まれたか
「人権宣言」という虚構)

第2部 現代日本の「人権」状況(「人権」が無軌道な子供を作り出す
「人権」が家族の絆を脅かす
「人権」が女性を不幸にする)

《反「人權」宣言》

精彩短评

1、个人VS集体的话题，老生常谈。其实说得也算中肯在理，首先弄明白个人（individual）的含义是整体的某一部分，人被剥离出整体会失去人固有属性。既然社会是大家达成一定共识加入进来的团体，绝对化自我是不可取的。说白了错不在世界，而是在不自觉不自律的个人身上，和自己利益冲突了要闹别扭，顺应了自己利益得了便宜还不卖乖，醉人。现在的人对人权一词的起源都没弄明白就在主张这种权利后果很严重，说白了你素质不够谈人权不现实，社会要出问题（「人權」はすべての属性を取り払った無機質の「人間」に善悪の判断基準が委ねられてしまう概念。）不过后面讲个人主义对家庭和妇女的威胁，一股直男癌气息扑面而来，也是醉人。这类社会问题，没有解。

《反「人權」宣言》

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:www.tushu000.com